

安政3年 大池村 服部惣助清成棟梁の熟考

掛川市 松ヶ岡 山崎万右衛門様 住宅



掛川市南西郷にある旧山崎家住宅の庭には、赤松の大木があります。これにちなんで、この屋敷は「松ヶ岡」と呼ばれるようになりました。

所有者がこの「松ヶ岡」を処分するという意向がありましたが、市民から取り壊しを惜しむ声が上がリ、平成24年12月、掛川市が土地を購入し、保存活用する方針になりました。「松ヶ岡プロジェクト推進委員会」が立ち上がり、官民一体で松ヶ岡の修復・復元のための調査が行われ、令和2年度から大規模修復工事が着手されて、令和5年6月末で母屋の修復が完了しました。

調査中、左の写真のような棟札が出てきました。左官屋の天井裏壁に刻まれた落書き等も合わせて考えると、安政3年は完成の年ではなく、上棟された年であることが予想されます。安政元年に安政東海地震(いわゆる**東南海地震**)があったことを考えると、その地震によって倒壊してしまった住宅の建替であることが想像されます。

棟札には「大池村 服部惣助清成棟梁」の名前が書かれています。服部棟梁は、地震に負けない建物を造るためにいろいろな工夫をしていると感じました。その熟考をご紹介します。前頁の「1階床剛性の確保」はその一つです。

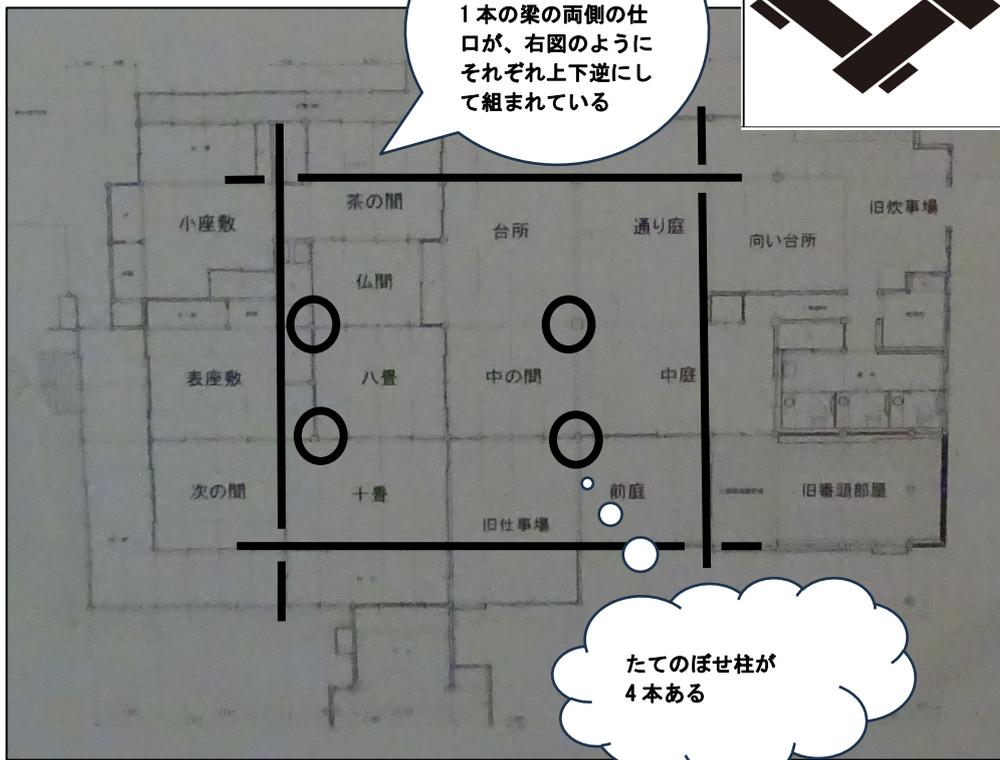
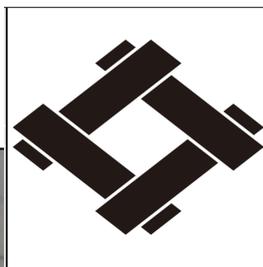
立てのぼせ柱 と 井桁に組まれた梁組

建物平面のほぼ中央に大黒柱(桧1尺)があります。その柱を含めて建物のコア部分を支える柱は、「たてのぼせ柱」として屋根面まで伸びています。

通常柱は桁までのため、小屋組は柱梁のメインの架構とは別の応答になりますが、屋根面まで伸びすことで、柱梁架構と小屋組が一体化され、剛性が確保されてラーメンのような応答が可能になると思います。

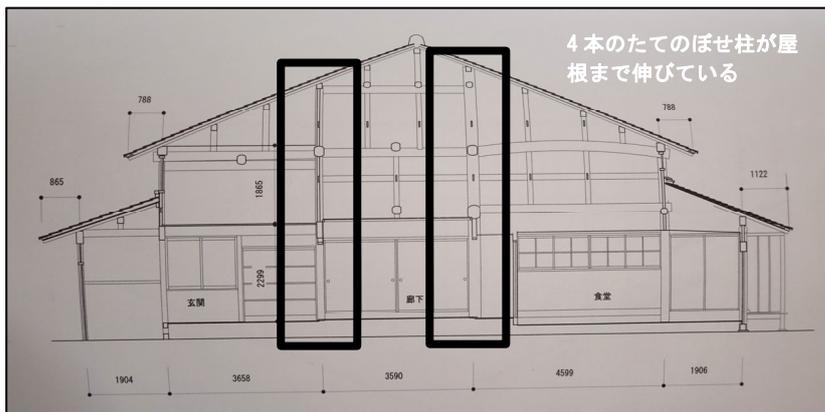
この「たてのぼせ柱」が2本あるのは他の建物でも見受けられるようですが、4本が屋根面まで伸びている例はないようです。もしそれが立証できれば、国の文化財に指定される可能性もあるようです。

梁は井桁に組まれて
いる
1本の梁の両側の仕
口が、右図のように
それぞれ上下逆にし
て組まれている



たてのぼせ柱が
4本ある

4本のたてのぼせ柱が
屋根まで伸びている



そのたてのぼせ柱を更に取り囲む梁は井桁に組まれており、それぞれ4本の梁は、片端仕口部が下側で受けていたとすると、もう一方の片端仕口部は上側になっています。まさに**井桁組**となって分解しづらく組まれています(どのような手法で組まれたかは謎です)。

その他の梁も含めて、継手を極力少なくするように、梁材はなるべく1本ものを使用しているようです。